

巻頭写真 カリフォルニアに巨木の地を訪ねて Visiting giant trees in California

巨木、長命というのは誰しも深く興味を覚え、それに接することで大きな感動を得る。カリフォルニア州には世界一の木がある。The Guinness Book of Records(1982年版)によると最大の木はセコイア国立公園の *Sequoiadendron giganteum* (giant sequoia) で、幹周 24.32 m、樹高 85 m、一番背の高い木は太平洋岸の Redwood Creek Grove にある *Sequoia sempervirens* (redwood) で樹高 111.60 m、幹周 13.38 m という。我が国では屋久島の縄文杉で幹周 16.1 m、樹高 30 m、秋田県二ツ井町の杉で樹高 58 m で桁が違う。長寿ではシエラネバダ山脈の *Pinus longaeva* の 4900 年という数字が記されている。この夏、第16回IBCのプレエクスカーションでカリフォルニアの巨木を見て回った。毎晩宿に着くのが10時、11時の強行軍だったが、日本の森林から見てやはり驚かされたのは木の大きさ、そしてマツ属の多様性である。シエラネバダ山脈は *Pinus*, *Abies*, *Picea*, *Pseudotsuga*, *Tsuga*, *Cupressus*, *Calocedrus* など様々な針葉樹が、標高や立地を変えて優占し、多様な針葉樹林を作っている。そしてその林が 40~60 m と高く、個々の木がひじょうに大きい。中でもぬきんで太いのが giant sequoia で、特徴的な円柱形の樹形をしている。写真1はヨセミテ国立公園内のもので、樹高は約 80 m、幹周は 20 m 位だろう。redwoodは海岸地方にあるが、下から見上げて「ひじょうに高い」としか表現のしようがない。*Pinus longaeva* にはシエラネバダ山脈の White Mountain で会えた。ガラガラの乾燥地の斜面を登っていった山頂近くの斜面に疎林をつくっている。成長がきわめて緩慢で、写真2に見るとおり、樹体の大部分が「死んで」いて木部がむき出しになっている。乾燥地のため菌類の活動が押さえられ、木部がむき出しでも朽ち果てることがないのだろう。1本1本の木は芸術的ともいえる樹形をしている。最大、最高、長寿のいずれもがカリフォルニア州にあるわけで、なぜそうなのかは色々議論されているようだ。植生史を考える場合、数百~千年のオーダーでの気候変動とそれに伴う植生の変遷、人間活動による改変が主眼とされるが、このような巨大な長寿の木を見ると、そのようなオーダーを遙かに超えていることに気づく。そのような樹木の存在の反映としての植物化石の分析とはいったい何なんだろうかとよくよく考えてみなければならぬのを実感した。(鈴木三男 Mitsuo Suzuki)

